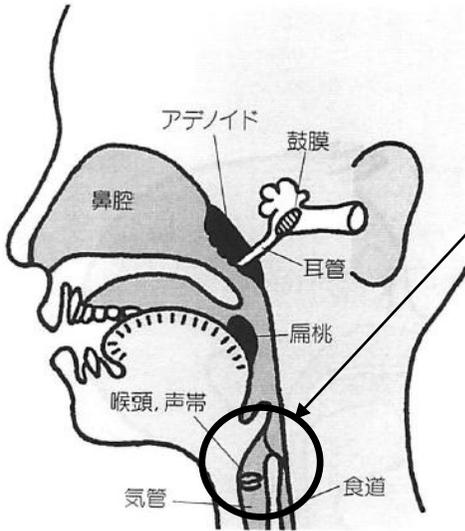


クループ（またはクループになりかけている）と診断された患者様へ

Q: クループってどんな病気ですか？



A:

この部分が炎症を起こすため、声がかすれたり、特徴的な咳（犬が吠えるような、またはオットセイが鳴くような、などと表現されます。医学用語では犬吠様咳嗽といいます）がでます。

進行すると、喉頭と呼ばれる部分がむくむために、空気の通り道が狭くなり、息を吸うときに音が出るようになります（ストライダー、または吸気性喘鳴といいます。）

“喉頭気管気管支炎”とも呼ばれます。

Q: クループの原因は？

A: ウイルスが原因です。 かぜのほとんどはウイルスが原因なので、かぜと原因は同じとお考えください。インフルエンザも乳幼児はかぜと症状がほとんど同じであり、広い意味では“かぜ症候群”に含まれます。つまりインフルエンザウイルスもクループの原因になります。

Q: クループになったときの夜中の注意点は？

A: 喉頭は少しむくむだけで症状が変わりやすく、夜中に急に症状が現れたり、悪化することが多いです。

夜中でも時間外受診を考えないといけないのは、泣いていないのに息を吸うときに“ぜー”とか“ひゅー”と音が聞こえるときです。さらに息が苦しそうに起きて肩で息をしているとき（呼吸が荒いとき）などは、時間外受診すべきです。ここまで進行するのはクループの一部のケースです。ほとんどのケースでは泣いた後に“ぜー”などの音が聞こえるくらいに留まります。寝ることもだいたい出来ていて、呼吸もさほど荒くなければ、自宅で経過をみることができます。

すやすや寝ているのに、息を吸うときに“ひゅー”とか“ぜー”とか音が聞こえる事があります。そのときは喉頭以外の部分からの音の可能性が高いです（たとえばいびきや鼻息）。すやすや寝ていれば、自宅で経過をみることができます。

クループは気管支炎も併発することが多いです（正確には気管支炎はクループに含まれます）。喘息と診断されているお子さんの場合、喘息発作を併発しやすいので注意してください。

平成 23 年 4 月 13 日 さかたこどもクリニック院長